

No. **339**
AUTUMN 2022

YASKAWA NEWSは
お客様と安川電機を結ぶPR情報誌です。

YASKAWA NEWS

特集
p2

展示会出展レポート

「FOOMA JAPAN 2022」 「ROBOT TECHNOLOGY JAPAN 2022」 「2022国際ウエルディングショー」

p8 新製品

SLIO I/Oシリーズを発売
JL-L000Aを発売

p10 トピックス

安川(常州)機電一体化系統有限公司 新工場が竣工
2050年カーボンニュートラル目標を改定
スペースLABOにMOTOMANを展示
MECHATROLINK協会 2022年度総会開催報告

p14 展示会

「第25回[関西]機械要素技術展」出展案内

p15 コラム

陸上部NEWS



展示会出展レポート



当社企業サイトでは、メイン展示の技術紹介を「テクニカルレポート」として公開しています。是非ご覧ください。
<https://www.yaskawa.co.jp/technology/technical-report/detail220808>

FOOMA JAPAN 2022 INTERNATIONAL FOOD MACHINERY & TECHNOLOGY EXHIBITION 2022国際食品工業展

FOOMA JAPAN 2022

2022年6月7日(火)～10日(金)

会場／東京ビッグサイト 東1～8ホール

主催／一般社団法人 日本食品機械工業会

ホームページ／<https://www.foomajapan.jp>

6月7日(火)～10日(金)の4日間、東京ビッグサイトで開催された「FOOMA JAPAN 2022」に出展しました。当社は「食の自動化のそばに。—安川グループと歩む食づくりの未来—」をテーマに、安川グループの最新技術を結集した食品製造の自動化に役立つ様々な製品・ソリューションをご提案しました。

メイン展示では「AI×ロボットによる次世代の食づくり」と題したデモンストレーションを実施。自動化・データ活用により食品製造のスマートファクトリーを実現する最新ソリューションに多くの反響をいただきました。

また、ご来場が難しいお客様に向け6月7日(火)～30日(木)に当社独自のオンライン展を同時開催し、多くの方に動画コンテンツなどをご覧いただきました。

安川グループはi³-Mechatronics(アイキューブ メカトロニクス)^{※1}コンセプトに基づいた製品を通じて、食品業界向けにサステナブルな良品製造や廃棄ロス低減に貢献するソリューション提案に取り組んでいきます。

今後とも、進化する安川グループにご期待ください。

※1 「新たな産業自動化革命の実現」に向け、これまでのソリューションに「デジタルデータのマネージメント」を加えた新たなソリューションコンセプト

メイン展示 AI×ロボットによる最新の 「異物検査+除去アプリケーション」

メイン展示では安川電機、(株)FAMS、(株)アイキューブデジタルの3社協業により「安川グループだからできる次世代の食づくりのカタチ」をご提案しました。

コンベヤ上に流れてくるハンバーグをビジョンで撮像、その画像からAIが異物や不良品を検知し、検知した異物や不良品をロボットが除去する「AI×ロボットによる異物検査+除去アプリケーション」のデモを実演することで、検品の自動化ソリューションをご提案しました。



さらに不良品データを視える化・分析することで不良発生の低減や廃棄ロスを低減し、結果的にサステナブルな良品製造を実現するスマートファクトリーへの取り組みをご紹介しました。

安全性や衛生面へ配慮した人協働ロボット

商品変更や段取り替えが多い食品工場では、ロボットを固定して使用することが困難という課題があり、人協働ロボットと台車を組み合わせてフレキシブルにレイアウト変更ができるソリューションをご提案しました。

今回展示した人協働ロボットMOTOMAN-HC10DTFP^{※2}は食品仕様として異物混入リスクを低減し、サニタリー性を向上させたロボットです。

※2 MOTOMAN-HCシリーズは安全機能により安全柵なしのシステム構築が可能ですが、すべてのケースにおいてリスクアセスメントを実施する必要があります。



止まらない設備、安定駆動を実現するコンポーネント

生産を止めないための予防保全や、スマートファクトリー化を実現する安川電機製品をご紹介します。

YRM-Xコントローラ



複数の装置・ロボットのまとまりである「セル^{※3}」全体を1台で同期制御。同時にデータ収集・解析し、工程改善も行います。

※3 複数の装置およびロボットを組み合わせ、共通のワークを持つなどデータの関連性が存在するひとつながりの設備

ACサーボドライブ Σ-X



運転データから「いつもと違う」を検知。突発的な故障の予防や適切なメンテナンス計画立案を実現します。

安川インバータ GA700 / GA500



● お問い合わせ先：営業本部 食品農業営業部 TEL: 03-5402-4579 FAX: 03-5402-4581

展示会出展レポート

ROBOT TECHNOLOGY JAPAN 2022

ROBOT TECHNOLOGY JAPAN 2022

2022年6月30日(木)～7月2日(土)

会場／Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)B, C, Dホール

主催／株式会社 ニュースダイジェスト社

共催／愛知県機械工具商業協同組合

ホームページ／robot-technology.jp

6月30日(木)～7月2日(土)にAichi Sky Expo(愛知県国際展示場)で開催された「ROBOT TECHNOLOGY JAPAN 2022」へ出展し、当社ブースには約6,000名のお客様にご来場いただきました。展示会期中はちょうど梅雨明け初夏の強い日差しで急激に気温が上昇し、非常に蒸し暑い天候が続いている最中でしたが、わざわざ会場まで足を運んでいただいた皆様に、重ねて御礼申し上げます。

今回の展示では、「i³-Mechatronicsがもたらすソリューションの進化」をメインテーマとして、未来の変化に対応したサステナブルなものづくりのご提案を行いました。

メイン展示では、今年3月に東京ビッグサイトで開催された2022国際ロボット展での展示内容を踏襲し、「変種変量に対応するi³-Mechatronicsの最新提案」として、YRMコントローラを基軸とした自律分散制御とセルのデジタルツインを実現することにより、変種変量・工程変化に対応したフレキシブルな自動化を提案しました。

一方、関連展示としては、

ティーチングプレイバック方式ロボットからの脱却！ 完全自律化に向けたロボットの進化

「新型自律ロボットMOTOMAN NEXTシリーズ(仮称、参考出展)」による複数ワークに対するシーリング作業およびジュース・お菓子の箱詰め作業

装置とロボットが融合したセルのDX化ソリューション

「リアルタイム・時間同期したデータ活用による現場の見える化」をテーマとした、i³-Mechatronicsを具現化したコンセプト

あいまいな判断へのAI適用で自動化領域拡大

当社の最新AI技術(Alliom Vision、Alliom Picking)を応用して人の感性や感覚をデジタル化することで自動化ソリューションに結び付けることを可能とした、から揚げピッキング・盛り付け作業

の3つのデモンストレーションをご紹介しました。

今後も、当社は未来の変化に対応できる生産力を実現し、サステナブルな社会を支えるものづくりをサポートするための様々なご提案を行ってまいります。



メイン展示
変種変量に対応する
i³-Mechatronicsの最新提案



新型自律ロボット MOTOMAN NEXTシリーズ(仮称、参考出展)



装置とロボットが融合したセルのDX化ソリューション



Alliom から揚げピッキング・盛り付け作業



人協働ロボット MOTOMAN-HCシリーズ ラインアップ



● お問い合わせ先：ロボット事業部 事業企画部 営業推進課 TEL: 093-645-7703 FAX: 093-645-7802

展示会出展レポート



日本から世界へ 溶接・接合、切断のDX革命

2022 国際ウエルディングショー

2022国際ウエルディングショー

2022年7月13日(水)～16日(土)

会場／東京ビッグサイト 東4～7ホール

主催／一般社団法人 日本溶接協会、産報出版株式会社

ホームページ／weldingshow.jp/2022/

当社は2022年7月13日(水)～7月16日(土)に東京ビッグサイト(東京国際展示場)で開催された「2022国際ウエルディングショー」へ出展しました。本展示会は「日本から世界へ溶接・接合、切断のDX革命 ―製造プロセスイノベーションの到来―」をテーマにした国内最大の溶接・接合、切断技術専門展示会です。会期中は新型コロナ第7波と重なるタイミングとなりましたが、当社ブースには約3,400名のお客様にご来場いただきました。この場を借りて、ご来場いただいた皆様に御礼を申し上げます。

本展示会では「i³-Mechatronicsによるスマートなものづくりの実現」をメインテーマ、「多様化する接合ニーズに対応するYASKAWAの接合ソリューション」をサブテーマとし、当社の最新接合技術を出展しました。

AI活用によるスポット溶接システムの立上げから保全までの自動化

協調プランニング機能により、ロボット間協調動作のティーチングを自動化し、更にサイクルタイム短縮とティーチング工数を削減。またスポット溶接の加圧力異常検知機能により、保全作業である加圧力確認の自動化を紹介

高品質アルミ溶接とインプロセス溶接診断機能

アルミ材におけるアーク溶接の速度向上のための2つのアプローチ(円弧ウィーピング溶接、ローパルス溶接)の実演とAIによる溶接波形診断機能を紹介

多様なレーザー溶接を実現するリモートレーザーソリューション

2Dガルバノスキャナーによるウォブリング(円弧状にレーザー焦点を移動させる)を行い各種接手のレーザー溶接、3Dガルバノスキャナーによるロボットが移動しながら指定軌跡のレーザー溶接を実演

熟練工の技を実現した「熟練型」人協働アーク溶接(参考出展)

人協働ロボットによるアーク溶接。溶融池(アーク溶接時の溶融金属)をモニタリングし、リアルタイムに溶接作業を最適化

当社はアークやスポットなどの従来の接合技術にレーザーや人協働アークなどを加えた幅広い接合ポートフォリオを有しており、今後も様々な溶接ニーズにお応えしてまいります。

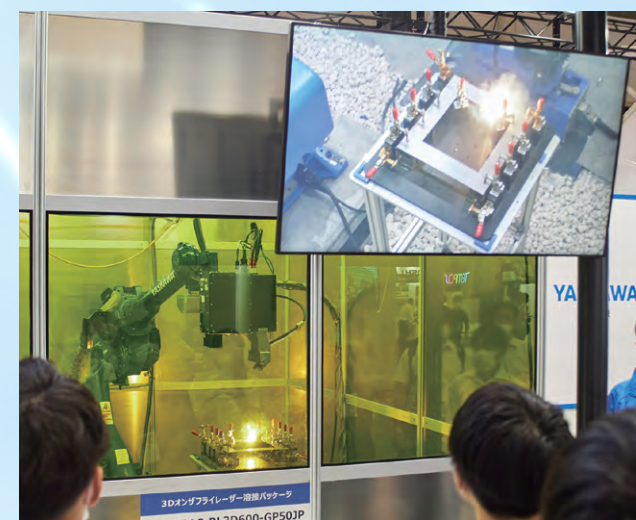


当社の製品・技術情報サイト(e-メカサイト)では今回展示したデモ機の動画を公開しております。是非ご覧ください。

<https://www.e-mechatronics.com/exh/archive/jiws2022/>



高品質アルミ溶接とインプロセス溶接診断機能



熟練工の技を実現した「熟練型」人協働アーク溶接(参考出展)

AI活用によるスポット溶接システムの立上げから保全までの自動化



多様なレーザー溶接を実現するリモートレーザーソリューション



● お問い合わせ先：ロボット事業部 事業企画部 営業推進課 TEL: 093-645-7703 FAX: 093-645-7802

各種通信ネットワークに対応したリモートI/O製品 SLIO I/Oシリーズを発売

ものづくりの現場では、人手不足や少子高齢化などの課題解決に向け、自動化だけではなくIoTやAIの導入によって工場や生産設備の可視化・データの分析を行い、生産性の向上や品質の安定を実現するいわゆる“スマートファクトリー化”が加速しています。これに対して当社は、ソリューションコンセプト「i³-Mechatronics」を提唱し、機械・設備を実際に稼働させた際に生み出されるデジタルデータを活用することで、生産性の向上、高い品質の確保、そして設備の故障予知等での止まらないラインを実現するソリューションでお客様に新たな価値を提供しています。そのデジタルデータ活用のためには、工場や生産設備のデータを効率よくまた安定的に収集する必要があります。

このような背景から、このたび上位コントローラや様々な機器と接続してデータを入出力するためのツールとして、各種通信ネットワーク(MECHATROLINK、EtherNet/IP、PROFIBUS、EtherCATなど)に対応したI/O製品「SLIO I/Oシリーズ」を7月25日から販売開始しました。SLIO I/Oシリーズは上位コント



SLIO I/Oシリーズ

ローラから独立したリモートI/Oで、コンパクトな形状の90種類を超える幅広い製品ラインアップがあります。各種ネットワークに対応した柔軟なシステムの構築が可能で、お客様の用途に合わせたデータ収集が行えるようになります。

YRM-Xコントローラとの接続例



YRM-Xコントローラ

EtherNet/IPバスカブラ

MP3000コントローラとの接続例



MP3000シリーズ

MECHATROLINK-IIIバスカブラ

豊富なラインアップ

SLIO I/OシリーズはデジタルI/O製品、アナログI/O製品など90種類を超える幅広いモジュールラインアップにより、柔軟なシステム構築が可能です。ネットワークに接続するためのバスカブラ*は最大64個のモジュールを取付け可能です。またライン拡張モジュール(マスタ/スレーブ)を使用することで、1つの配線を最大5系統に分割できます。

※ リモートI/O製品を各種ネットワークに接続するための専用モジュール

製品 カテゴリー	ライン アップ数	製品 カテゴリー	ライン アップ数
電源	3	通信	2
分配	3	カウンタ	5
バスカブラ	7	SSI	1
デジタル入力	14	位置決め	3
デジタル出力	14	拡張	2
アナログ入力	24	アクセサリ	6
アナログ出力	12		

主な用途 半導体・液晶製造装置、電子部品実装機、金属加工機、包装機やロボットなど広く一般産業機器全般でご使用いただけます。

省スペース化を実現する接続機能

スクリューレスタミナルや階段形状配線で省スペース化を実現できます。

設置や保守点検が容易

組立てにおいて、ねじや専用工具が不要です。また設置・配線後に電子モジュールのみ交換が可能のため、迅速なメンテナンスが可能です。

※記事中に記載された名称は、各社の商標または登録商標の場合があります。

MECHATROLINK-4に対応、伝送効率4倍を実現する通信ASIC JL-L000Aを発売

MECHATROLINK-4対応の通信ASIC
JL-L000A

当社は長期経営計画「2025年ビジョン」で「新たな産業自動化革命の実現」を掲げ、生産現場の見える化など、デジタルデータソリューションによる生産性の向上や止まらないラインの実現を図るソリューションコンセプト「i³-Mechatronics」を提唱しています。当社は今までもMECHATROLINKに対応した通信ASICを販売してきましたが、このたびi³-Mechatronicsの「integrated(統合的)」強化として、新世代の産業ネットワークであるMECHATROLINK-4に対応し、従来のMECHATROLINK-Ⅲと比べて伝送効率が4倍となる通信ASIC「JL-L000A」を開発しました。

MECHATROLINK-4は、MECHATROLINK-Ⅲの機能・性能と使いやすさを継承しつつ、伝送効率の向上やマルチマスタ機能の追加等により、より効率的で高度な制御を実現しています。本製品とホストCPUを組み合わせることにより、お客様自身がMECHATROLINK-4に対応した機器(マスタ/スレーブ)を容易に開発することができるようになりました。より効率的で高度に制御できる特長を活用いただくことで、お客様の更なる高性能な製品開発に貢献します。

なお、本ASICはMECHATROLINK協会会員向けの販売となります。本製品の購入にはMECHATROLINK協会への入会(一般会員以上)が必要となります。

主な用途 お客様の用途に応じて、MECHATROLINK-4およびMECHATROLINK-Ⅲに対応したマスタおよびスレーブを開発することができます。

MECHATROLINK-4の特長を生かした高効率でフレキシブルなシステム構築を実現

①高効率通信

高効率な通信手順により、短い伝送周期での細かな制御や、同一伝送周期での多くのスレーブ機器の接続が可能で、装置の大規模化、高精度化に貢献します。また、空いている通信帯域をIP通信に割り当てることで、汎用通信機器を同一ネットワークに統合できます。

②伝送周期の複数設定

スレーブ機器ごとに伝送周期を自由に設定可能なため、接続された全スレーブ機器の最大伝送周期に合わせる必要がなく、各スレーブ機器の最高性能を引き出します。スレーブ機器ごとに伝送タイミングを分散できるため、伝送周期を短縮できます。

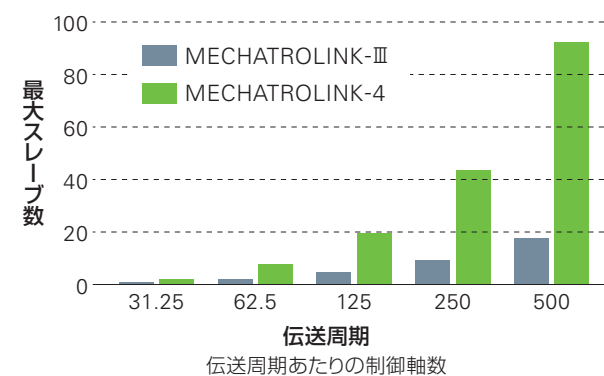
③マルチマスタ(分散制御)*

同一ネットワーク上に複数のマスタ機器を接続可能です。マスタ負荷の分散による高速化、装置のモジュール化による開発効率化、フレキシブルなライン構築に貢献します。

※開発中の機能で、アクセストライバの更新により対応を予定しています。

MECHATROLINK-4、MECHATROLINK-Ⅲ両方に対応した製品開発が可能

本製品(JZPMC-MD001A)とホストCPUの組合せで、お客様自身がMECHATROLINK-4対応製品を容易に開発できます。MECHATROLINK-4通信は、MECHATROLINK-Ⅲと同一条件で約4倍の伝送性能を実現可能です。また、開発した製品はMECHATROLINK-4/MECHATROLINK-Ⅲ通信の両方に対応し、切り替えて選択することができます。



中国国内のサプライチェーンを強化

安川(常州)機電一体化系統有限公司 新工場が竣工

安川(常州)機電一体化系統有限公司(中華人民共和国江蘇省常州市武進区)の新工場が竣工し、中国生産拠点で使用するサーボアンプ、インバータ用の実装基板品やロボット用制御盤内に搭載する電子ユニット品などの量産を開始しました。

中国では、コロナウイルス感染拡大の影響を受け経済活動が停滞していますが、少子高齢化による人手不足や人件費の高騰、コロナによる感染拡大リスク等から生産現場における自動化の需要は高まっています。また、中国国内の成長戦略に伴い、EV関連、5G関連、カーボンニュートラルに配慮した環境関連のインフラ投資、半導体のほか一般産業市場の幅広い分野での需要の拡大が見込まれています。

これらの旺盛な需要に柔軟に対応するため、当社グループの中国国内の生産拠点で使用する実装基板品や電子ユニット品などの主要部品を、このたび新設する工場から供給することで中国国内のサプライチェーンを強化します。

当社が掲げているソリューションコンセプト「i³-Mechatronics (アイキューブ メカトロニクス)」を実践した生産体制の構築によって、生産性と品質の向上を加速します。また、今後、生産機種を拡大し、更なる対応力の強化を図るとともに、「i³-Mechatronics」のソリューション提案力を高め、お客様への満足度向上と、中国経済の成長と発展に貢献します。



安川(常州)機電一体化系統有限公司の外観

新工場概要

所在地：中華人民共和国江蘇省常州市武進区龍顔路11号

敷地面積：50,044平方メートル

延床面積：26,973平方メートル

生産開始：2022年6月



竣工式の模様

● お問い合わせ先：広報・IR部 TEL: 093-588-3076 FAX: 093-645-8831

サプライチェーンにおけるCO₂排出量(スコープ3)の目標を新たに設定

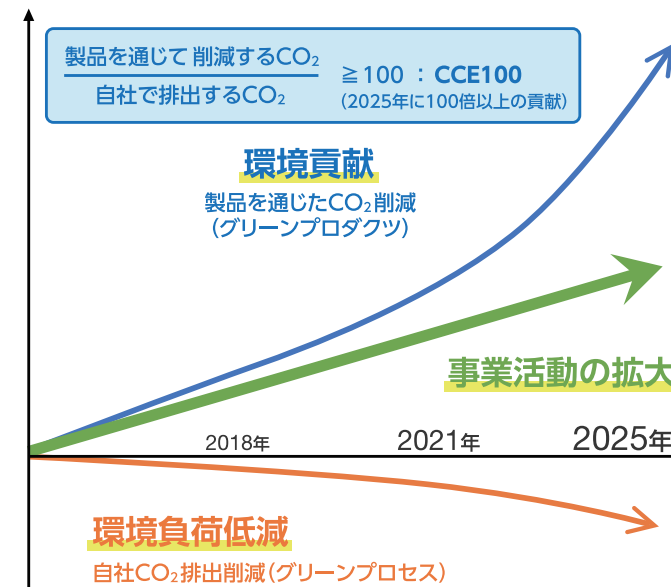
2050年カーボンニュートラル目標を改定

当社はこのたび、グループの環境ビジョンである「YASKAWA ECO VISION^{※1}」における2021年に定めた2050年カーボンニュートラル目標を改定し、そのマイルストーンとなる2030年の当社グループのグローバルの事業活動に伴うCO₂^{※2}排出量(スコープ1^{※3}+スコープ2^{※4})の削減目標を2018年比で36%から51%へ変更するほか、調達先やお客様などを含めたサプライチェーンの上流および下流における排出量(スコープ3^{※5})の2030年の削減目標を2020年比で15%とする目標を新たに加えました。

当社グループは、「YASKAWA ECO VISION」において、生産活動(グリーンプロセス)における環境負荷を従来以上に低減するとともに、技術力をもって製品の環境性能を高め、製品(グリーンプロダクト)により世の中の環境負荷を低減することで更なる貢献を果たすことを掲げています。2021年には、全人類における社会課題である地球温暖化に伴う気候変動の抑制に向けて、2050年に当社グループのCO₂排出量(スコープ1+スコープ2)を実質ゼロ(カーボンニュートラル)とする目標「2050 CARBON NEUTRAL CHALLENGE」を設定しました。

当社グループのこのたびの目標の改定では、当初に設定した目標に対して社内での取組みがより早く進んでいることと、またサプライチェーンのCO₂排出量(スコープ3)もトレース可能な環境が整ったことで、より高い目標を設定することができるようになりました。なお、これらの目標の科学的根拠との整合を確保するためにSBTi^{※6}に認定を申請中^{※7}です。

また、当社は従来からコア技術であるパワー変換技術を活用した世界最高性能を誇るインバータなどの製品供給を通じ、世の中のCO₂排出削減に貢献するため、2025年に当社製品によるCO₂削減貢献量を当社グループによるCO₂排出量の100倍以上とする独自の目標「CCE100^{※8}」を掲げて事業活動に取り組んでおります。これらの目標の達成に向けて、当社ではインターナルカーボンプライシング制度(社内炭素価格:5,000円/トン-CO₂)を導入し、積極的な環境投資を進めております。このたびの目標改定を踏まえて、より一層の環境に配慮した事業活動を継続していくことにより、持続可能な社会の実現への貢献と企業価値の向上を図ります。



※1 安川グループの環境ビジョン「YASKAWA ECO VISION」について
<https://www.yaskawa.co.jp/company/csr/env/activity>



※2 二酸化炭素およびその他温室効果ガス(フロン等)を含む

※3 スコープ1：主に燃料使用に伴う排出(自社の直接排出)

※4 スコープ2：購入した電力・熱の使用に伴う排出
 (電力会社等による自社の間接排出)

※5 スコープ3：スコープ1、スコープ2以外の間接排出
 (事業者の活動に関連する他社の排出)

※6 Science Based Targets initiative：企業のCO₂削減目標が科学的な根拠と整合したものであることを認定する国際的なイニシアチブ

※7 気候変動による世界の平均気温上昇を産業革命前と比べ1.5度未満に抑えるという1.5度目標としての認定を申請。

※8 Contribution to Cool Earth 100

● お問い合わせ先：広報・IR部 TEL: 093-588-3076 FAX: 093-645-8831

「フシギ」の芽を大切に、その芽を更に育ていく体験・体感型の科学館 スペースLABOにMOTOMANを展示

4月28日(木)にテーマパーク「スペースワールド」跡地に整備された複合商業施設「ジ・アウトレット北九州」がオープンし、同じ敷地内に併設された「スペースLABO(北九州市科学館)」が開館しました。

同施設は、1960年に開設された北九州市立児童文化科学館(北九州市八幡東区)を移転して、国内最大級のプラネタリウムや、巨大な竜巻を発生させる装置など、実際に見て触れて科学を学べる体験型の施設として新たに生まれ変わりました。

また、市内外の企業15社の展示コーナーも設けられています。安川電機のコーナーでは、ロボット3台が連携して小倉城や若戸大橋、JR門司港駅などの北九州市内名所や、安川電機みらい館を積木ブロックで組立て街づくりを行うパフォーマンスを行っています。

暮らしの身近な所にある科学のフシギについて、子どもから大人まで楽しく学べる施設ですので、皆様も一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



スペースLABO北九州 安川電機展示コーナー

スペースLABO(北九州市科学館)

開館時間：10:00～18:00(入館は17:30まで)

※金曜・土曜・祝前日は、プラネタリウムのみ20:00まで

休館日：年末年始(12月29日～1月3日)

※施設保守等のため、臨時で休館日を設ける場合があります。

アクセス：福岡県北九州市八幡東区東田4-1-1

JR鹿児島本線「スペースワールド」駅下車、徒歩3分

※入館にはホームページから事前予約が必要です。

予約方法、入館料は下記サイトににてご確認ください。

<https://www.kitakyushuspacelabo.jp>



● お問い合わせ先：広報・IR部 TEL: 093-588-3076 FAX: 093-645-8831

モーションフィールドネットワークMECHATROLINKを世界に普及 MECHATROLINK協会 2022年度総会開催報告

安川電機が開発したオープンフィールドネットワークMECHATROLINKを世界に普及させるために設立されたMECHATROLINK協会は、MECHATROLINK製品開発メンバーおよびMECHATROLINKユーザーで構成される組織です。今年のMECHATROLINK協会総会は、昨年に引き続きオンラインで開催いたしました。

はじめに、MECHATROLINK協会上山幹事長(安川電機モーションコントロール事業部長)による挨拶を行い、依然続くコロナ禍での様々な状況に対する思いと今後の動向や期待、MECHATROLINK協会参画企業に向けたメッセージがありました。総会の部では、MECHATROLINK協会事務局代表から、2021年度活動報告および2022年度活動計画の発表を行いました。感染者急増により2020年度よりも厳しい一年となりましたが、これまでの実績や得た情報を有効的に活用し、各拠点での普及推進活動を行いました。

新製品紹介では、モベンシス株式会社と安川電機の2社による発表を行いました。大きく変化したモノづくりの現場でますます期待される、進化した産業用オープンフィールドネットワーク「MECHATROLINK-4」に対応する製品やソリューション事例と取り組みといった最新情報の紹介が行われました。

基調講演の部では、安川電機の笠原浩 代表取締役会長兼社長による「安川電機の方向性(i³-MechatronicsとYDX)」というテーマでの講演を行いました。これまでどんなことを進めてきたのか、世の中の変化に対し今後どのような方向性になっていくのかといった視点から、産業界全体とグローバルでの動向や自社の取り組みや思い、そしてMECHATROLINKを含めた産業ネットワークにまつわる内容でした。

発表資料は、協会ウェブサイトからダウンロードできます。
(ダウンロードには会員登録およびログインが必要です。)

http://products.mechatrolink.org/event_detail/id=875

内容／タイトル		発表者	
➤ MECHATROLINK協会	挨拶 活動報告、活動計画	幹事長 事務局代表	上山 顕治 下畑 宏伸
➤ 新製品紹介	モベンシス(株) 「世界初のMECHATROLINK-4ソフトマスタ搭載 PCベースコントローラ WMX3-M4」	取締役会長 兼 CSO	梁 富好 様
(株)安川電機	「i ³ -Mechatronicsを実現するYRM-Xコントローラの進化」	技術開発本部 コントローラ開発部 部長	今永 一弘
(株)安川電機	「安川ソリューションファクトリにおけるデータ活用事例のご紹介」	モーションコントロール事業部 ソリューション技術部 部長	和田 達明
➤ 基調講演	(株)安川電機 「安川電機の方向性(i ³ -MechatronicsとYDX)」	代表取締役会長 兼 社長	小笠原 浩



MECHATROLINK協会
上山 顕治



モベンシス(株)
梁 富好様



(株)安川電機
今永 一弘



(株)安川電機
和田 達明



(株)安川電機
小笠原 浩

● お問い合わせ先：モーションコントロール事業部 事業企画部 事業パートナー拡大推進課 TEL: 04-2962-6359 FAX: 04-2966-0746

機械要素、加工技術を集めた西日本最大の専門展 「第25回[関西]機械要素技術展」出展案内

10月5日(水)～7日(金)の3日間、インテックス大阪にて「第25回 関西ものづくりワールド」が開催されます。同展示会は西日本最大のものづくりの展示会です。当社は「関西ものづくりワールド」を構成する展示会の一つ、「第25回[関西]機械要素技術展」に、「i³-Mechatronicsによるスマートなものづくりの実現」をテーマに出展いたします。

ブースでは、装置メーカーの皆様の課題を解決し、装置の付加価値を向上する様々なソリューションをご提案いたします。メイン展示では、「装置withロボットによる用途拡大・付加価値向上」をコンセプトにした人協働ロボットを展示します。そのほかにも「データ活用による止まらない装置の構築」「装置の小型化&効率UP」などに貢献する当社のロボット・サーボ・インバータの最新

技術を、デモ機を通じてご提案いたします。

是非安川電機ブースにお越しいただき、当社のソリューションの数々をご覧ください。

会 期 2022年10月5日(水)～7日(金)
10:00～17:00(最終日は17:00まで)
会 場 インテックス大阪
安川電機ブース小間番号：20-5(4号館)
主 催 者 RX JAPAN株式会社
U R L <https://www.manufacturing-world.jp/kansai/ja-jp/about/mtech.html>

i³-Mechatronicsによるスマートなものづくりの実現

装置の開発設計者の皆様へ、課題を解決するソリューションをご提案いたします

セル化によるビジネス領域拡大をサポート

メイン展示 装置に自動化の付加価値を!

「装置 with ロボット」の実現により、お客様の装置の差別化に貢献します。これまで人に頼っていたワークの投入/搬出を自動化し、装置の生産性を最大化する無駄のない設備を実現。省スペースで設置可能な人協働ロボットで自動化の付加価値をつけることが可能です。



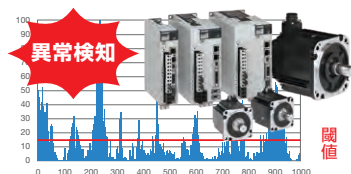
YRM-Xコントローラは、複数の装置・ロボットのまとまりである”セル”全体を1台で同期制御。同時にデータ収集・解析し、工程改善も可能です



YRM-Xコントローラ

データ活用による止まらない装置の構築

サーボやインバータがセンサーとなってデータを収集します。これらのデータを活用し、突発的な停止や故障を予防。止まらない装置を実現します。



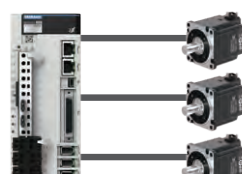
ACサーボドライブ Σ-Xシリーズ



安川インバータ GA700/GA500



エコPMモータ フラットタイプ



Σ-X(3軸アンプ)

装置の小型化

モータ長を大幅に短縮したエコPMモータフラットタイプや、3軸アンプの適用により小型化・省配線を実現したΣ-Xが、装置の小型化に貢献します。

● お問い合わせ先：営業本部 西部第2営業部 TEL: 06-6346-4544 FAX: 06-6346-4556



2022年度陸上部新体制と目標

陸上部のメンバー紹介や大会結果、スケジュールなど詳しい情報は陸上部公式サイトでご確認ください。
<https://sports.yaskawa.co.jp/track-field/>



トラックシーズンでは故障明けの選手が多くスタートダッシュとはなりませんでした。レースを重ねるごとにコンディションを上げていき、加藤風磨選手、鈴木雄太選手、新郷幸聖選手の3名が自己ベストを更新しました。また、兵庫リレーカーニバルではエースの古賀淳紫選手が6位入賞を果たし、新人の合田椋選手は実業団デビュー戦となりましたが他チームの主力と競り合う走りを見せてくれました。明るい材料もありましたが、全体

としては他チームとの戦力差が出る結果となりました。

これから選手たちは、夏の鍛錬期に突入します。トラックシーズンでは各々課題が見つかり、他チームとの差が明確となりました。スタッフ、選手一人一人が目的を持って夏合宿に臨むことで課題を達成し、チーム力向上に努めていきたいと考えています。秋以降のレースでそれぞれの成長を見せられるよう、精進してまいりますので引き続きご声援よろしくお願いいたします。



新郷幸聖選手
トラックシーズン 1500m、5000m自己ベスト



鈴木雄太選手
トラックシーズン 5000m、10000m自己ベスト



合田椋選手

選手コメント

合田 椋

上期のレースでは思い通りの走りをする事ができませんでした。実業団デビュー戦となった4月の兵庫リレーカーニバルでは、自分がレース前に思い描いていた理想以上の走りをする事ができたのですが、それ以降のレースでは前半は積極的なレース運びができるにもかかわらず、後半失速してしまうレースがほとんどでした。社会人となり、大学時代より強度の高い練習に対応できていない自分の弱さを痛感しています。今後は、夏合宿を経てもう一度土台を作り直し、秋以降のロードシーズンで自分が納得のいく結果を出せるように頑張っていきたいと思います。

Don't think. Feel. 考えるな、感じる。

YASKAWA



ロボットは、感覚で動かせる。

ロボットの操作は複雑で難しい...そう思いませんか？

安川電機の「スタートシリーズ」は、タブレット型のペンダントを使い、直感的にロボットを操作できます。

頭で難しく考える前に、タッチスクリーンの上で指を動かせば、思ったままにロボットが動く。

まるでロボットと感覚を共有しているかのような感覚。小型ロボット×スタートペンダントで、ロボットをもっと身近に。

スタートシリーズ



株式会社 安川電機

ロボット事業部

〒806-0004 北七州市（南区）黒崎城石2番1号

TEL (093) 645-7703 FAX (093) 645-7802

【オフィス/サイト】 www.yaskawa.co.jp

【製品・技術情報サイト】 www.e-mecatronics.com

YASKAWA
NEWS

No.339

発行日：2022年8月29日

発行所：株式会社 安川電機

〒105-6891 東京都港区海岸1-16-1 ニューピア竹芝サウスタワー8階 TEL: 03-5402-4665

編集責任者：営業本部 CRM戦略推進室 西 慶太

制作：安川オピアス株式会社

次号 2022年11月 発行予定

既刊号はオフィシャルサイトで公開中

